

# 夢を見つけ、追いかけた4年間の体験記

新稲 陸

## 1. 教師という職業

「教師」と聞いてどんなことを想像するだろうか。過去の恩師を連想し、良い思い出が浮かぶだろうか。あるいは苦い思い出が浮かぶだろうか。この「教師」という職業は、この広い地球に住むほぼ全ての人が関わったことのあるもので、形を問わずとも、それは若かりし頃の思い出を伴って連想されるものではないだろうか。一度きりの人生において、長期間その記憶に留まる人になれるという特別感こそ、教師の魅力の一つであり、私がこの職を選んだ理由の一つだ。ここでは、このような印象を持つ教職に就くまでの道のりや葛藤を綴る。

## 2. 進路決定までの道のり～夢を見つける～

私は、大学入学時点では、この職に特別な思いを抱いていたわけではなく、教員免許状という資格そのものに若干の興味があった程度に過ぎなかった。当時の将来の夢は、役所や県庁で働く地方公務員の事務職だった。その後、教職課程の講義を受けていく中で、徐々に教職に興味を持つようになった。特に生徒・進路指導論、教育方法論、社会科教育法などの講義では、教員がどのように生徒と接していくのか、どのように教科の内容を指導していくのかを実践的に学んだ。こうしたことを学んでいく中で、教師という職業がいかに人間的で、やりがいを感じられる職業なのかが分かってきた。事務職を越えて教職を志すようになったのは、大学二年で経験した、神戸市の学生短期間雇用制度だった。神戸市では福祉局で勤務し、そこで業務を進めていく中で、私は、相手が目の前にいて、その人の役に立てるような職業の方が合っていると考えるようになった。こうして、その性格を持つ教職を目指そうと心に決め、教員採用試験の受験を考えるようになった。

## 3. 教員採用試験の突破に向けて～夢を追いかける～

私は、大学を卒業してすぐに「教諭」としていち早く教育現場で勤務したいという思いが強かった。これは、スクールサポーターの経験等から、教科教育や生徒指導は実際の現場で経験を積まなければ、熟することは難しいと考えたためだ。大学院への進学や故郷である兵庫県のみを受験することも検討したが、いち早く合格を獲得するために、兵庫県の一般選考と同時に福岡県の大学等推薦特別選考を受験することにした。出願時、兵庫県の教員採用試験は非常に難関と言われ、特に社会科は例年の倍率の高さも相まって合格するのは厳しいという認識だったため、後述する「どちらも合格」を想像することは出来ていなかった。福岡県は、推薦だからという安直な理由ではなく、実際にホームページを確認

---

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科卒業（令和5年度）、兵庫県（中学校社会科）・福岡県（中学校社会科）合格

し、福岡の教育に興味を持つと同時に、福岡という右肩上がりに成長する都市で働くことへのあこがれから受験した。出願後は、とにかく憧れの教諭になりたいという一心で、勉学に励んだ。勉強の方法は別の機会で詳述したが、私の場合は、実際に教師になった時に役立つ知識を習得することを並行しなかったため、特に社会科の専門教養は、中高生が使う教科書を使用して授業の進め方もイメージしながら勉強した。兵庫県の集団面接については、サポート室の先生のご協力もいただき、何度も練習を重ねた。

一次試験の結果発表では、福岡県は試験が免除されたが、兵庫県では自分の力で合格するが出来た。この時点で、二つの県の二次試験を受験する必要があったため、両県の試験の特徴を踏まえた対策を急ピッチで進めた。面接や模擬授業は、目の前に実際に生徒がいるかのような臨場感を持ち、生き生きした表情で練習を重ねた。兵庫県の模擬授業ではICTツールの導入が求められたため、四年間で学んだことをすべて盛り込み、オリジナリティも持った授業を構成した。こうした練習は自分一人ではしにくいいため、友人や過去の先生など多くの人に協力いただいた。本番もトラブルなくいつも通りの力を発揮することができ、両県で合格を勝ち取ることが出来た。

#### 4. 今後教師を志すあなたへ伝えたいこと

あなたは今、「教師になる」という熱い思いを持っているだろうか。そこに曇りがあれば、面接で見抜かれるだけでなく、一次試験の勉強にも本腰を入れられないだろう。知識を習得することが重要であるのは言うまでもないが、その前に自分の中で、確固たる意志を持つことが重要だと考える。こうした意思を持つためには、実際に自分の判断で行動し、様々なことに興味を持つことが重要だ。就職までの道のりは険しく、辛く、孤独なものかもしれないが、サポート室や教職課程の先生方や、私たち神戸学院大学の卒業生も、あなたのことを応援している。頼れる人には頼り、自分が動かなければならない時は動くことが大切だ。「心頭滅却すれば火もまた涼し」。私が教員採用試験を目指す上で大切にしたい言葉で、現在の私の座右の銘だ。どれだけ辛いことでも、心の持ち方次第で凌ぐことが出来る。一人でも多くの後輩が、それぞれの夢を叶えられることを心から願っている。